

核密約へ沖縄シナリオ

沖縄返還合意の69年日米会談

沖縄の1972年返還が決まった69年11月の日米首脳会談で、佐藤栄作首相と尼克松大統領が返還後の沖縄に緊急時に核兵器を持ち込む密約を結ぶまでの詳細なシナリオの存在が明らかになった。

1969年に日米首脳会談で核密約を結ぶ際の佐藤首相向けのシナリオ

かになった。佐藤首相の密使としてキッシンジャー大使と佐藤首相と、統領補佐官と水面下で交渉した若林敬・京都産業大学教授が佐藤首相向けに書いたものとなる。

▼3面=「絶対機密級」

非核三原則を掲げる佐藤首相は沖縄返還交渉でも、「核拡張・本土並み」を国指したが、米側は返還時に核を撤去する代わりに緊急時の核持ち込みを認めるよう要求。外交当局間の事前交渉で詰め切れないまま、94年に核密約の存在を明かされた著書で触れているが、それを裏付ける史料で、段取りなどが詳細だ。密使を使った極秘交渉の舞台裏で、保秘を徹底していた様子がうかがえる。

シンジヤー氏のみが承知して、國務次官のものではない」と佐藤首相に説明。核問題を議論する会談では触れず、「ニクソン氏が自然な形で『樂稿品など貼つてあるのでお見せしたい」と語り、「頭から否定する」とし、通訳も入れずと躊躇に躊躇して「直ぐにサインする」ものであるといふ。別途たどるまでの流れは米側の密談段階にもほぼ同じ様の記載がある。

泉田は裏書きで、会談後に佐藤首相から電話があり、「ただ一つ漏っていたのは、サインの件」と伝えられ、「なぜだかわ」と強い疑問が私の頭をよぎった」と述べている。

泉田は裏書きで、会談後に佐藤首相から電話があり、「ただ一つ漏っていたのは、サインの件」と伝えられ、「なぜだかわ」と強い疑問が私の頭をよぎった」と述べている。

密使が首相に

沖縄返還と核密約

1960年の日米安保条約改定時に、両政府は米国が日本に核兵器を持ち込もうとする際は事前協議をするとして確認。佐藤首相は67年に「持ち込ませず」を含む非核三原則を表明したが、沖縄の72年返還に合意した69年の日米首脳会談の際、「重大な緊急事態」では事前協議で返還後の沖縄に核持ち込みを認めるとした密約の合意文書に署名していた。

外務省は民主党政権下の2010年の調査報告書で、核密約に関する文書は見つからず全く知らないかったとした。当時の岡田克也外相は核密約について、外交当局が関与せず政府内で引き継がれていないとして「いまや有効ではない」と説明。今の政府も同じ立場だ。

著書で初めて明かした後も、政府は否定。2009年に佐藤首相の次男で元自由民主党議員の眞氏（故）が、両高職がフルネームで署名した核密約の全文を公表した。今回明らかにしたシナリオは、眞氏の娘の夫で自由党議院議員の阿座雅志氏が眞氏とともに署名した核密約の全文を保有する原本のコピーを保有している。

著書「若林敬・日米密約」がある信濃監司・日本大特任教授は「首相向けに核密約を結ぶ手順を詳細に説明した一次資料は初めて見だ。若林氏の筆跡であり、返還後の沖縄への核持ち込みがいかに慎重に練られたかがわかる」と話す。（黒澤泰・藤田直次）